

## 知的障害児のバランス運動の指導において有用な指導系列

著者	国分 充
著者別表示	Kokubun Mitsuru
雑誌名	平成8(1996)年度 科学研究費補助金 基盤研究(C) 研究概要
巻	1996
ページ	2p.
発行年	2016-04-21
URL	<a href="http://doi.org/10.24517/00066174">http://doi.org/10.24517/00066174</a>



# 知的障害児のバランス運動の指導において有用な指導系列

Research Project

All ▼

## Project/Area Number

08680277

## Research Category

Grant-in-Aid for Scientific Research (C)

## Allocation Type

Single-year Grants

## Section

一般

## Research Field

教科教育

## Research Institution

Kanazawa University

## Principal Investigator

国分 充 金沢大学, 教育学部, 助教授 (40205365)

## Project Period (FY)

1996

## Project Status

Completed (Fiscal Year 1996)

## Budget Amount [\\*help](#)

**¥1,100,000 (Direct Cost: ¥1,100,000)**

Fiscal Year 1996: ¥1,100,000 (Direct Cost: ¥1,100,000)

## Keywords

知的障害児 / バランス運動 / 行動調整 / 片足立ち / 立ち幅跳び

## Research Abstract

---

養護学校に在籍する中等部・高等部の生徒を対象として、代表的なバランス運動である片足立ちの測定を、言語指示にのみ基づいて行う場合と、高さ20cmの台の上に軸足を載せて行う場合との2つで行った。また、一方、同一の被験者で、言語による行動調整の水準をGarfieldのmotorimpersistence testの3項目で測定した。片足立ちの成績の、言語指示にのみ基づいて行う場合と台の上で行う場合の差を調べたところ、一般的には、台の上で行う場合の方が成績が高くなることが示された。そして、ビデオ記録によってその際にフォームの変化が見られるか否かを解析したところ、大きな変化はなく、このことから、その差は主に、台を用いることによる心理学的な変化に起因するものと考えられた。そして、言語指示にのみ基づいて行う場合と台の上で行う場合の差を、言語による行動調整の水準と関連させてみたところ、言語による行動調整の水準の低い者ほど、言語指示にのみ基づいて行う場合と台の上で行う場合の差が大きくなる傾向が明らかになり、このことから、台を用いることによる心理学的な効果とは、内的に不十分な行動調整能力を、外的な状況が補償するというところにあるのではないかと考えられた。このことを確認するため、片足立ちと同様の運動行動である立ち幅跳びを、同一の被験者を対象として、言語指示にのみ基づいて行う場合と目標点を設定して行う場合とで測定したところ、一般に目標点を提示して測定を行うほうが、高い成績が得られることが示され、そこで特に高い成績を示した者は、台の上での片足立ちで特に高い成績を示した者と一致していた。

## Report (1 results)

---

1996 Annual Research Report

URL: <https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-08680277/>

Published: 1996-03-31 Modified: 2016-04-21